

アグリ

ワーク

ポイント

AGRI WORK POINT



初倉宮農経済センター 服部晃

米
中干し管理に
ついて

中干しの目的と効果

- 中干しすることで倒伏を抑制して目標収量を確保し、良品質のお米が実る稲の体格作りを行います。
- ① 水を切ることで生育を抑え、茎数過多を防ぎます。葉の垂れを防ぎ、株内に光が入るようにします。また、下位の節間の伸長を抑え、倒伏しにくい稲に仕上げます。
 - ② 土中に酸素を補給し、根を活性化させます。
 - ③ この時期に干すことで、収穫直前の落水でも容易に田面が硬くなり、収穫作業がスムーズに行えます。

中干しの開始時期

有効茎数(2葉以上ある茎)が平均して20本程度になったら中干しを開始します(田植え後30〜40日が目安)。

中干しの程度

- ① ほ場や品種、天候によって異なりますが、7〜15日間実施し、田面に軽くヒビが入る程度行いましょう。
 - ② 砂質土壌では、軽めに行うか間断かん水とします。
- ※ 水はけの良い水田での強すぎる中干しは、稲体を弱める要因になるので注意してください。

中干し後の水管理

中干し後の水管理は、かん水と落水を繰り返す間断かん水を行います。(3〜4日程度)その後、幼水形成期から出穂期は、常時かん水状態に保ってください。特に、晴天日が続く場合は、こまめな水管理が必要です。

中干し期の除草

ノビエと広葉雑草の防除に「クリンチャーバスME液剤」または、「トドメMF乳剤」を散布してください。充分落水し、散布後3日は晴れる日に散布して、3日間は入水しないようにします。

ケイ酸の補給

稲はとてもケイ酸が必要な作物です。ケイ酸は、光合成を高め、茎尻を強くします。中干し期に歩きやすくなったなら「けい酸加里プレミア34」を40kg/10a施肥しましょう。